

会津支部だより (第十四号)

新潟大学人文・法・経済科学部同窓会(青松会) 会津支部

令和七年四月一日発行

会津支部だより
第14号
令和7年4月1日

編集発行

新潟大学

人文・法・経済科学部
同窓会(青松会) 会津支部

(発行人) 小澤清辰
(事務局)

会津若松市川原町2-26

☎ 090-2026-8442

zkravmh@bd6.so-net.ne.jp

(鈴木伸康宅)

支部長挨拶



小澤清辰

昭和55年経済学部卒

同窓生の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

今冬の会津地方は積雪量が観測史上最大となり、私自身も50年前に見た雪景色にタイムスリップしたかのような感覚になりました。まさに災害級の大雪は、雪国会津の自然の過酷さを身にしみて思い知らされました。

さて、会津支部は平成19年に設立され、来年には20周年を迎える新大同窓会の中でも歴史のある支部であります。決して大規模な支部ではないものの、単なる懇親会のみでの総会ではなく、ミニコンサートや地元有志による演舞など毎年創意工夫を重ね、同窓生が参加し良かったと思える同窓会を目指して参りました。

また、若手会や喜多方会の開催など、メンバーが固定化しがちな同窓会ではなく、若手の同窓生の皆様が参加しやすい会にしてゆきたいと考えております。

人生に於いて、大学生の四年間は光り輝く時間であり、その時間を会津とゆかりのある新潟大学で過ごした同窓生の皆様には、会津支部への参加を心よりお待ちしております。

令和7年度 新潟大学人文・法・経済科学部同窓会 (青松会) 会津支部総会

日時 6月14日(土) 11時

場所 ホテルニューパレス 会津若松市

会費 6,000円(予定)

たくさんのご参加をお待ちしております。



令和6年度総会にて

随想 シリーズ

大学を卒業してから

桑原義博

昭和55年法文学部経済学卒



卒業して今年で45年が過ぎました。思い返してみると、月並みな表現ですが卒業がつい最近のような気がします。もちろん鏡をみると40数年分経過していますが。

この40数年間、県職員として福島県に奉職しましたが、人生の基礎は大学生活で大きく変化し、固まったと思っています。会津の田舎から新潟市に転居して、言葉とか文化の違いを身に染みて感じ、また友人にも恵まれ、新しい世界に馴染むよう努めました。でも当時はそんな事を表に出さなかつたつもりでした。当時の友人がこの文をみたらきつと大笑いするでしょうね。そんなタマかと。えらい迷惑したぞとか、悪口が聞こえてきます。気恥ずかしい。

仕事柄、新潟の情報を知りたくもあり、そんな時古い友人・知人の活躍を耳にしては、当時を懐かしく思い出します。

生涯の趣味は登山ですが、会津の山はほとんど登り、新潟県など近隣の山も登りに行きます。県外の有名な山は当然すばらしいのですが、会津の山も静かな山旅ができてそれなりに楽しめます。単独行がメインですが、2回ほど遭難しかけた事もあります。いづれも大事には至らず無事下山しています。

現在は退職し、毎日が日曜日状態ですが耕作放棄

地の草刈りとか除雪とか家の管理が色々あり、また YOUTUBE を見たり、読書もしたりとかで以外と忙しい毎日（以前は1日でできた仕事は今2日ばかりでやっていたためですが。）です。

一昨年は春日ゼミのOBで先生のお墓参り兼同窓会があり、なつかしい面々にお会いでき、次は同期の同窓会開催との声もありましたが、諸事情により先延ばしになってます。

旧友との再会はやはりうれしいものです。健康なうちに多くの知人・友人と再会したいと思っっています。お会いできた時はよろしくお願いします。

随想

輝きを求めて

弓田 幸吉

昭和58年法学部卒

学生時代を過ごしたアパートは、五十嵐2の町で台所・トイレ・風呂・電話は共同で家賃は1万円。大家さんの庭から天然ガスが自噴しガス代は無料の共同下宿のようなものでした。入居者は同期入学者ばかりであった為に学部は違えども自然と仲良くなり何をすることも一緒に行動していました。酒飲み・麻雀・トランプ・合コン・アルバイト・ツーリングと楽しい生活を過ごす一方、部活動は系東流空手部で硬派な時間も過ごしました。

大学卒業後は、銀行に就職し福島県内各地を転動していたところ、平成二十五



酒沢カールにて

年三月新潟支店勤務を命じられました。大学卒業から30年後の新潟市街地の印象は「古町に人がいない」ことに驚きました。地方都市に共通の郊外にショッピングセンターが出来て人流が変わってしまったようです。社宅も会社も古町に近かったために、私は人流に逆らって夜の古町に足を向けていました。

四十代半ばから健康増進を兼ねて登山を趣味としていた為、休みの日には新潟県内の有名な山にここぞとばかりに登っていました。御取引先の山好きの方とも意気投合し山談義に花を咲かせる中で背中を押されて北アルプスまで足を運ぶことが出来ました。新潟市からなら高速で3時間程度で行けることが分かり夏季休暇を利用して山小屋泊まりの縦走を楽しみました。私にとっては全てが未体験の心躍るドキドキの冒険でした。

三年間の新潟支店勤務を経て、福島県内に戻ってからも年一回程度は日本アルプス登山を楽しみました。奥穂高岳山荘の元支配人宮田八郎氏は、自分を輝かせるために山に登っているというような事を述べていたそうです。

私も普段の生活に安寧を求めつつも刺激が欲しくなった時には、これから先も体力の続く限り輝きを求めて山に登るのでしょう。

随想

私の学生時代の思い出

松崎 正明

昭和59年 法学部卒

私の学生時代の一番の思い出は、取り壊された六花寮に入寮したことです。入学から卒業までの四年間まるまる御世話になりました。六花寮の立地は新潟市関屋の住宅地にあり、関屋浜がすぐ後ろにある大変良好な環境でした。五十嵐キャンパスまで遠い

ことから（10km以上ありました）つつい繁華街の古町方面へ出かけてしまうのです。

六花寮は四階建ての大変大規模な寮で、A館とB館に分かれ、真ん中に食堂と大浴場がありました。私はA館の3階（A3）におり、基本相部屋で、2人部屋が2つ、後は4人部屋です。4人部屋は悲惨で、新入生はほとんどスペースがなく、学年が上がるにつれて広いスペースがとれます。早く上級生になりたいと思う日々でした。

とっておきのエピソードとしては、新入寮生歓迎行事で、特製の清酒「日本海」を飲まれたことです。これは一生忘れられません。先輩寮生が日本海の海水を煮沸消毒し、日本酒とブレンドして新入寮生に一気に飲みさせるのです。新歓行事のクライマックスで、食堂に全員集合し、まず先輩が日本酒（本物です）を一気飲みし、新入寮生が後に続くわけですが、飲み終わった後の違和感がなんともいえないのです。コンプライアンスにうるさい昨今では、絶対できないでしょう。

騙された感が大きく、自分が先輩になったらリベンジしたくなるので、伝統が続きます。

他に寮のサークル「走ろう会」や、毎年秋に開催した寮祭、酔



新潟大学 六花寮 5.11.11

在りし日の六花寮

って女子寮に夜襲するストーム等々いろいろな思い出があります。また、代々受け継がれた寮歌があります。中でも「頒春の歌」は名曲です。今度機会があれば、披露したいと思います。振り返れば、多才の人々と暮らした四年間は、掛け替えのないものでした。

随想 学生時代を振り返って

新 國 仁

昭和59年経済学部卒

新潟大学での学年生活が始まったのは、ちょうど今から45年前の四月のことでした。そんなことをふと思っていたところ、高校の同期でもある鈴木伸康君より今回の原稿依頼がありましたので、新潟での四年間の学生生活、生活面、部活動、学業の面からちょっとだけ振り返ってみようと思います。

まず生活面ですが、一年目は、賄い付きの下宿と広い大学のキャンパスを往復する規則正しい生活から始まり、二年目にはよりキャンパスに近い台所付きのアパートへと引っ越したのです。引っ越しは、大学から借りたりヤ

カーで荷物を運んだというなんとも僕歌的な情景が思い出されます。こうして自炊生活が始まり、献立を考えることから、買い物、調理、後片付けまでを楽しむコツが徐々に身についたかなと思います。次に部活動ですが、



新潟大学 第二球場にて

一年目は、自分たちでバドミントンの同好会を立ち上げ、ちょっと身体を動かしていました。高校時代野球部だった私は、また野球がやりたいという思いが強くなり、二年生の途中から学友会の準硬式野球部に入部しました。準硬式野球部には、硬式の経験者もいれば、全く野球が初めてという人もいて、お互いを尊重しながら野球と飲み会を楽しんだのでした。「第15回全日本大学選抜準硬式野球大会」が

いい思い出となっています。そして学業ですが、ゼミでは経営学を専攻し、当時の『ジャパンアズナンバーワン』として称賛されていた日本の経営について学び研究しました。その中で、ドラッグの著作とも出会い、社会人になってからもマネジメントに関しての影響を受け続けたのでした。

新潟大学を卒業して四十年あまりが経ち、現在の私は、新潟からほぼ南の方角の茅ヶ崎に住み、あの頃を懐かしく思い出しています。

随想 過去・現在・未来

小 林 茂 行

昭和63年法学部卒

皆様こんにちは。私は喜多方市高郷町在住の小林茂行と申します。喜多方高校を1984年3月に卒業、同年4月に新潟大学法学部に入學し、1988年3月に卒業しました。

大学卒業後、サッポロビール株式会社に入社、営業畑を中心に約26年勤務しました。2014年に同社を退社し、現在の地で新規就農し現在に至っております。

学生時代は様々なアルバイトに明け暮れておりました。中でも就職先をビール会社に決めたいと

となった当時寺尾にあったホテルでのアルバイトでは多くの経験が由来しました。未収の酒代の回収にとある飲食店に赴き店主に追い返された事が強く思い出として残っております。当時民法のゼミに所属していた私は、ここぞとばかり債権回収に関する法律用語を並べ立て店主に集金を迫りましたが現実はその甘くはありませんでした。

卒業後、サッポロビール株式会社に入社したわけですが、初任地が新潟支社で、新潟大学出身ということでも多くのお客様にかわいがっていただいた良い思い出があります。また、同社の新潟大学出身の事務系総合職社員の第1号であったことを入社後に知りました。これから後に続くであろう先輩たちに頑張っている先輩がいることを知ってもらおうよう、企業戦士を絵に描いたように日夜仕事に奮闘していました。その甲斐あってか、優秀な先輩が何人も入社しているのを見聞きし、うれしく思ったものです。

そして現在はアスパラガスをメインとした農業を営んでおります。きっかけは帰省の度に荒廃してゆく農地を見るのが忍びなく、故郷のために自身が動くしかない、と就農を決意しました。お陰様で就農して10年が経ち、昨年息子が親元就農し共に汗を流しています。農閑期である冬期間は福島県の会計年度任用職員として道路除雪業務に従事しております。

人生すべからく社会貢献である、という思いを具現化し続けられるよう日々精進しております。どうぞよろしくお願いたします。



自慢のアスパラガスです

随想

「中学校部活動地域移行」の現場より

六 澤 彰 太

平成23年経済学部卒

私は大学を卒業後は隣町の会津美里町で現場職員として14年間勤務しております。

その傍らで現在は、中学校の部活動地域移行が進められる中、母校の卓球部で2年前から指導を行っております。この取り組みの目的は、部活動の負担を教師から地域へと移すことで、教師の業務を軽減し、より教育現場を持続可能な形にすることです。しかし、実際に地域で指導を引き受ける中で、さまざまな課題を実感しました。

まず、指導員として関わるのは基本的に定年退職をした年配の方が多く、彼らの経験や熱意は素晴らしいものの、現代の教育方針や子供たちとの接し方において、時代の変化に対応しきれていない部分があると感じました。

昔ながらの厳しい指導方法が主流であった時代とは異なり、現在は子供の主体性を重んじる指導が求められています。そのため、私自身も最近の教育方針について学び、伝統と現代の考え方をバランスよく取り入れながら指導することを心がけています。



後姿が私です

また、地域移行を進める上での課題として、指導者の確保が挙げられます。部活動の指導には専門的な知識や経験が必要ですが、仕事をしながら関わるのは難しく、かといってリタイアした方だけでは指導の幅が限られてしまいます。若い世代の指導者が増えることで、より柔軟で時代に即した指導が可能になると考えていますが、そのためには地域ぐるみでのサポートや、指導者への適切な報酬・研修制度の整備が必要です。

私自身、指導をする中で子供たちの成長を間近で感じることで、それが大きなやりがいになっています。技術指導だけでなく、部活動を通じて礼儀や協調性を学ぶ機会を提供することも重要です。部活動地域移行はまだ課題も多いですが、子供たちにとってより良い環境を作るために、今後も尽力していきたいと考えています。

随想

五十嵐寮の友人たち

望 月 麻 衣

平成29年人文学部卒

新潟大学を卒業してから、今年の春で8年が経ちます。社会人として過ごした時間が大学在籍期間の2倍になることに衝撃を受けるとともに、それくらい、あの4年間で濃密で充実した時間であったと改めて感じます。

大学時代、部活動やバイト、専攻ゼミ以外の居場所として、私は「五十嵐寮」での寮生活がありました。入学前は一人暮らしに夢見ながら家族の勧めでの入寮になりましたが、今思い返すと入寮できて本当に良かったと思います。寮生活では仲の良い同じ階の同級生たちと談話室で一緒に過ごすことが多く、一緒に深夜アニメを見たり、発売されたばかりのゲー

ムを24時間以上ぶっ通しでプレイしたりと他愛のない毎日でした。でも、深夜にバイトを終えて帰ってきて談話室に顔を出すと誰かが必ず「おかえり」を言ってくれる。すると、バイトなどで嫌なことがあっても気持ちを持ち直せたものです。公務員試験のときには他の公務員志望の友人と談話室で勉強や面接の練習をしたことや、卒論提出前には談話室に入り浸って友人たちと励ましあいながら卒論作成をギリギリまで頑張ったことも良い思い出です。

そんな友人たちとは卒業後も交流が続いています。社会人になって働くようになり自由に使えるお金ができたこともあり、大学時代よりさらに趣味に力を入れるようになり、年に数回は寮時代の友人と旅行をしたり推し活をしたりしています。コロナの時期はなかなか外出ができず塞ぎ込んでしまうような日々でしたが、寮時代の友人たちと毎週末一緒にオンラインゲームをしたり、電話しながら好きな舞台のライブ配信を一緒に観たりするなどして気分転換ができていました。友人たちがいなくなったら病んでいたと思うくらい、そういった時間が心の支えでした。こんなに付き合いの長い友人たちは非常に得難いものです。大学での出会いに感謝しながら、これからも交流を続けられたらと思います。



大阪城にて